

カルメル修道会会則がエルサレム大司教アルベルトから与えられてから 800 周年記念を迎えるに当たりカルメル修道会<O.Carm>と跣足カルメル修道会<O.C.D.>の合同長上会からのメッセージ

「こういうわけで、わたしの御父の前にひざまずいて祈ります。御父から、天と地にあるすべての家族がその名を与えられています。どうか、御父が、その豊かな栄光に従い、その霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強めて（くださいますように）」（エフェソ 3:14-16）。

1. 導入

10 年前にすべてのカルメル・ファミリーに宛てたイノセント四世教皇によって決定的に認可された『会則』の 750 周年を記念しました。

エルサレムの大司教聖アルベルトから与えられた会則である『生活の規則』（1205 年～1214 年に間に与えられた）の 800 周年を記念するためにカルメル・ファミリーにもう一度、このメッセージを送ります。この『生活の規則』はパレスチナのカルメル山のエリヤの泉近くに隠遁していた隠修士に与えられたものです。わたしたちは、この『生活の規則』が与えられたシンボリックな年を 1207 年と決めました。この規則は後に『会則』に変化していきます。この最初のグループは、教会のために豊かな実りと種々の歴史から生活を与えられました。

2. わたしたちの起源の生きた記憶

全カルメル会は、わたしたちの起源がああ聖なる山にあることを確認しています。イエスの聖テレサの言葉を聞きましょう。「わたしたちの先祖、あの聖なる預言者たちの上にじっと目をお注ぎなさい。天国には、わたしたちの修道服を着けた聖人がどれほどいることでしょうか。神の恵みによって彼らに倣おうとの、聖なる野心をおもちなさい」（創立史 29:33）。

親愛なる兄弟・姉妹のみなさん、この聖なる山の麓に、わたしたちはみなさんをシンボリックに招集します。この 800 年の間に同じ泉から汲み取った霊的生きた水を受けた証しによって、誠実にわたしたちの奉仕の約束とイエス・キリストに心から従うことを刷新しましょう。事実、わたしたちの『会則』は、常に新しい生活の泉です。

3. イエス・キリストへの心から従って生きる

『生活の規則』は、ヨーロッパからパレスチナへの巡礼者たちの最初のグループの霊的体験の表現です。これがカルメル山のエリヤの泉近くの隠修士たちに適用されました。イエス・キリストとの出会いと現存を強調しますし、イエス・キリストの容姿の中にわたしたちを親密に招き入れます。カルメルのカリスマのアイデンティティは、日常的にこの出会いから生まれてきますし、常に刷新の要素を持っています。

この規則の最初からイエス・キリストに心から従って生きることを要求されますし、従うだけでなく、この確かさを証しすることでもあります。キリストは『会則』の中心であり、カルメル的生活の中心でもあります。彼の声を聴き、わたしたちの自由な応答から唯一の主であり救い主に奉献するものです。それは豊かな命を受けるためでもあります（ヨハネ福音書 10:10 参照）。従うことは聴き従うことであり、イエス・キリストに心から従うことは、イエスは主であると口と生活で告白することを意味しています（ローマ書 10:9-18 参照）。そして、彼がわたしたちを解放し、彼のみで満たすことを意識することです。事実、イエスの神秘はすべての時代の男性・女性に実存の深みを啓示されました。

キリストの呼びかけに従うことは、キリストのうちに変容する道に導かれます。それは新しい創造のようなものであり、神が被造物を見て愛されたようにわたしたちも造られたものを見て愛するように招かれます。疑いなく、この目的を追い求めるために価値づけと粘り強さを必要とします。なぜならば、骨の折れる曲がりくねった道を歩むことになるからです。それにもかかわらず、多くのカルメル会士たちの証言から、聖エリヤのように砂漠の中にながらも、栄光の山へ向けて神から追い立てられるのを感じています。信仰の母であり姉妹である聖マリアは常に同伴していますし、主キリストへ導くためにわたしたちを見守って下っています。

4. 中心部には…

『会則』は、修室の中央に祈祷書を備えるように書いています（会則 No.14 参照）。毎朝、ここに集まってミサを捧げるように書いています。カルメル会士は修室に留まって、霊的歩みのシンボルとなる砂漠の真ん中として留まります。一つの共同体のメンバーとして、共同生活の活動の中心地である祈祷所に集まるために、ある時間には修室の孤独から出ていきます。修室の中央に置かれている祈祷所は、主なるキリストが個人にとっても共同体にとっても中心である

ことを示し続けるためでもあります。これは初代キリスト信者共同体を想起して（使徒言行録 2:42、4:32 参照）、常に聖別奉獻生活の預言的使命を考慮しています。

この日々の集まりは修室から出ることとなりますが、共同体の中心である神との出会いのために自己満足の危険から出ることにも意味しています。

修室の中で孤独の沈黙のうちに神探究のために捧げられた時間と空間は、他者との関係を断つわけではありません。この二つの関係が本物である必要があります。事実、どんな信仰体験も隣人愛の実践のはかりに従って真実性を示します。

イエスの聖テレサの『靈魂の城』の中で、神と人間との親密な出会いが發展すると示しています。内的歩みの目標はキリストが住んでいるわたしたちの内奥の中心に至りつくことですが、多くの困難と試みを越えていきます。『会則』も同じ視点から靈的武具を聖書的戦闘に備えます。それは貞潔であり、聖なる考えであり、正義であり、神と隣人への愛であり、神の御言葉である救い主への信仰と信頼であります。『会則』と聖書は靈的戦いがわたしたち自身の内面にあることを思い起こさせます。祈り、沈黙、労働、福音的自己放棄と共に、わたしたちの生活の中で、（罪の傷の）癒しと御主との和解の必要を知ることを学びます（会則 No.18、19、20、21 参照）。

5. 毎日、ミサに集まらなければならない（会則 No.14）

隠修生活の日課は、主の過ぎ越しの記念であるエウカリスティアの日々の典礼と共に始まります。隠修士たちにとって、他の時間にエウカリスティアの典礼に集まることは簡単とは言えません。しかしながら初期のカルメル会士たちは自分たちの生活にとってこの神秘の重要さに気づきます。そして800年の間、同じ生活スタイル（朝にミサを捧げること）を続けてきました。キリストとの出会いと交わりは、内的生活の中心だからです。

わたしたちが知っている多くの判例の中で、イエスの聖テレサが修道院創立を意識する中で最初のミサを捧げてご聖体安置することの重要性を持っていたことを見れば理解できるでしょう。

聖マリア・マグダレナ・デ・パッチのほとんどの神秘体験が聖体拝領後にあったことも、ダッハウの強制収容所にいた福者チト・ブランズマがメガネケー

スの中に持っていた聖体のカケラから力をくみ取っていたことをみても理解できます。

エウカリスティアはわたしたちの祈りの中心です。それはわたしたちのために十字架の死まで引き渡した神秘であり、復活したキリストの神秘であり、わたしたちと共に生きるキリストの神秘です。エウカリスティアはすべての人の終末にお祝いする祝祭です。すべての人と分かち合う平和の神的賜物でもあります。

6. 昼も夜も黙想すること(会則 No.10)

『会則』は、わたしたちを御言葉の中でイエス・キリストとの出会いに招きます。わたしたちの心に語りかけることができるように、それぞれの修室で御主と二人きりで生きます。主の掟を黙想することと絶え間ない祈りは二つの御言葉を理解する時です。黙想と祈りが一日を満たしますように。

祈りながら行う聖書の読書は噛み砕き続けることであり、御言葉が心と思考とそれに口に留まり続けるために行うことです(会則 No.19 参照)。それだけでなく、霊的事柄に味わいを持たし続けるのは聖霊の働きです。わたしたちの中に御言葉が宿るまで観想の賜物をくださるのは聖霊です。御言葉がわたしたちに宿るようにわたしたちは御言葉に生きます。わたしたちはキリストのうちに生きていますが、信仰によってキリストもわたしたちのうちに生きています(会則 No.10、19 参照)。それは御父の御言葉であるキリストによって生きるためです。カルメル会士の生活はキリストのうちに生きることです(会則 No.18 参照)。

個人的祈りと共同体の祈りは、わたしたちに神の声を聴くことができるように調和させます。修室の孤独はわたしたちの心が神の心と調和を持つことができるように条件付けています。

7. 神の御言葉を豊かにわたしたちの口と心に宿すように(会則 No.19)

この言葉は、聖書の御言葉に言及されていますし、この御言葉の中に主の救いのご意志を含んでいます。また、御父の唯一の御言葉は、内的沈黙と十字架の聖ヨハネのいう「沈黙の音楽」のうちに響く孤独のうちに受け取られます。現存する神の御言葉は預言者聖エリヤにとって食べ物とエネルギーに変わり、神のために情熱を傾け、憂鬱とイゼベルの脅しを克服するものとなりました。エリヤが神の御言葉に従って神の民への奉仕ができるようになり、弱さと迫害

においても契約に忠実に行動できるようになりました。

十字架の聖ヨハネは次のように言います。御言葉は御父が語り、永遠の沈黙のうちに語りかけ、沈黙のうちに霊魂から聴こえて来なければならない。わたしたちに与えられた御言葉である御子はすべてを語られた。

『会則』はわたしたちに御言葉の聴取者となることを望んでいます。聖マリアのように。聖母マリアは心の中でこれらのことを思いめぐらしていたと聖書に書かれています（ルカ福音書 2:19 参照）。聖マリアはイエスへの奉仕と神のご計画にすべてを捧げます。「御言葉の通りになりますように」（ルカ福音書 1:38）。

この唯一の御言葉は、わたしたちの意識の深いところで、今日もわたしたちに語り続けています。人生の中の要求と出来事の深みから語り続けています。

8. 「沈黙と希望のうちにこそ、あなたがたの力はある」（会則 No.21）

わたしたちの生活の規則は、希望と共に沈黙を兼ね備えています。それは平安、静穏、静けさ、神への信頼の行動を意味しています。カルメルの『会則』は孤独（会則 No.5、6、10 参照）を勧めますし、沈黙と希望を感じるように勧めます（会則 No.21 参照）。聖なる考えを通して知的で想像力豊かな教育をするようにします。また、聖なるシンボルや芸術も付け加えることができますでしょう。会員に内的活力を与えるためです。

わたしたちの時代に喜んで伝えることのできることは、キリスト教的希望のしるしの中にこれらの霊的善を实らせることです。

内面に導くカリスマの創造的忠実さの価値を求められています。なぜならば、主の霊は世の罪の傷と病気の中で働き続けているからです。

希望は各人に触れる聖霊のエネルギーです。歴史の重要な出来事に働かれ、人間に対する神の秘められたご計画を成し遂げるように働かれるからです。キリスト者は自分自身に対して、世に対して希望の召命を持っています。真理とうちの正義を実行することであり、決してイデオロギーによってやり込めたり、無意味な宣伝によって圧倒するものではありません。神の視線と共に現実を読み取ることから行います。神の御言葉への傾聴が思想を変えてくださり、

識別を助け、個人的な確信を強めます。御言葉がわたしたちを死へ導く言葉でなく、復活の充満の中の神の恵みの御言葉となります。

9. 世のさまざまな道を通して (会則 No.17)

イエス・キリストとの絆が聖別奉獻とキリスト信者の霊的生活の枠組みをつくります。それは普遍的な聖性への召命となるからです。カルメルの経験からは教会のために大きな情熱を傾ける表現を持っていますし、人々に対しては寛大で思いやりをもった表現となります。わたしたちの聖人たちは二重の方向性を示しています。

イエスの聖テレサは一つの靈魂の救いのために千の命を差し出すほどに、姉妹たちに祈るように勧めていますし、靈魂のための善を愛するように導きます。カルメルの中の彼女の生活は、教会と人間尊厳のために向けられています。

愛の博士であり宣教の保護者と言われる幼きイエスの聖テレーズは、教会の心臓の中の愛への召命が聖性の決定的発見の一つであるといえます。

カルメルの祈りは使徒的です。祈りは共感的であり、神との関係から受け取った宝を小さい人・貧しい人に与えるための刺激となります。カルメルの霊的賜物を分かちあふことは、神の子たちの世界をつくることに寄与します。見るべき神は、貧しい人の叫びを聞きつける神です (詩編 113 : 7-8 参照)。今日、世界は希望と刷新を必要としています。わたしたちは聖霊の助けと共にこのお手伝いに呼ばれています。

教皇はわたしたちに自分に対して好ましくない人にも神のうちに愛することと神と共に愛することを呼び起こしています。このことは神との親密な出会いのみが可能にすることです。神のご意志と一致することと神の思いを共にすることです。そのため、他者を見るために自分の目で見ただけでなく、イエス・キリストの目からも見る必要がありますし、この見方を学ばなくてはなりません。

どのようにキリストのために情熱を傾けるべきかといいますと、御主の持っていた人間の救いへの情熱が、わたしたちの情熱に変化することです。文化、種族、言語の相違にも関わらず人間の救いへの情熱へ。イエスの霊は、霊の自由を与えます。希望を必要としている兄弟姉妹への出会いに導きます。

10. 「あなたの天幕に場所を広く取り…」(イザヤ 54:2)。

兄弟性 (会則 No.4、5、7、9、12 参照)

『生活の規則』はブロガルトドと隠修士たちに向けられています (会則 No. 1 参照)。イエス・キリストは彼らが共同生活するための中心であり、キリストによって立てられた院長への従順の根拠ともなっています。それは彼らが受け入れる生活のプログラムの中に入っています。これは過去の聖なる師父たちが受け取ったときから『会則』の中で従順を見えています。エルサレム教会から、エルサレムの大司教を通して、すべての教会に広がり、わたしたちのところまで来ている『会則』です (会則 No.3 参照)。そして主キリストが再臨するまで続くでしょう。個人で歩むのではなく、兄弟・姉妹と共に神の御顔を探し求めて歩みます。この人々はカルメルと教会を照らした偉大な聖人たちです。今日、これらの人々と生活を分かち合いながら、わたしたちはカリスマの力と出会っています。

11. あなた方の道において預言を心に収めよ (会則 No.21)

この過去のたくさんの証人たちと共に、聖霊は現代の預言者であり殉教者を準備してくださいました。福者チト・ブランズマは人種差別反対者であり、真理と自由を伝達した人です。聖テレジア・ベネディクタであるエディット・シュタインは女性の尊厳を伝え、ユダイズムとキリスト教の境の中で真理の知的探究を続けた人でもあります。他のカルメルの殉教者たちも信仰と神の愛を告白しました。カルメルの観想は、生活の困難さの中にいる兄弟たち・姉妹たちを幸運に導くことに参加するものです。カルメルの神秘的沈黙は、正義に基づいた新しい世界の建設を通して、すべての時代の悲しみと苦悩に満ちた人々を喜びと希望を与えるものであるはずです。

12. 最後に

カルメルは聖母マリアの美しさと輝きに魅了されています。『会則』の表題に書かれています。なぜならば、彼女の中に御言葉が宿っているからです。真の『会則』はイエス・キリストであり、永遠の御父が語られた御言葉であり、聖母マリアの中で御言葉のより完全な形に出会うからです。キリストの第一の弟子である聖母マリアは、わたしたちのうちに御言葉が受肉することを喜んでいきます。このことは、福者三位一体のエリザベトが靈魂の中の御言葉の受肉とし

て述べてもいます。

聖マリアと彼女の生活の中で『会則』を読まなければならない確信は、初期のカルメル会士の著作にも見られることです。聖アウグスチヌスのミゲル修士が次のように書いています。「わたしたちの『会則』はマリアと共に象徴化されています。マリアは互いに認め合うシンボルの別の部分のようです」。

福音の再発見をしたリジューの聖テレーズは、マリアが女王以上に母であることを発見しています。それはマリアの生活がわたしたちの生活と同じであり、信仰と奉仕の観点から心の中からイエスに従うことを意味しています。

このカルメルの 800 年間を見据えながら、神に感謝を表しましょう。神の恵みが教会の生命のために与えられますように。

すべての聖人とともに主を賛美しましょう。『会則』がカルメルの生きた伝統の中でイエス・キリストに心から従うことを鼓舞しますように。

この『会則』の原型である『生活の規則』が与えられてから 800 年になる記念が、教会と人々の中で誠実に恵みの召命に応えるものとなりますように。

訳 松田浩一 OCD